

常陸太田を学ぶ、体験学習施設

—地域住民の郷土愛定着と地域外への魅力発信者の育成—

182021 川口研究室 佐藤 優樹



■ 研究背景

私の地元である、茨城県常陸太田市の国道 349 号線沿いに、常陸太田について学べる体験学習施設を計画する。

対象敷地に学びの場となる、体験学習施設を計画しようと考えたのは、茨城県は 2012 年を除き、2009 年から 2019 年の都道府県魅力度ランキングにおいて最下位であり、道の駅 ひたちおたでを行ったインタビューでも、常陸太田の魅力について聞くと、「何も無いところ」「田んぼしかない」などの意見が見受けられた。

また、茨城県は全国で唯一ローカルテレビ局がない県であり、自分の住む地域の情報を知れる機会が他県より少ない。そのため、地域を知ろうとする気持ちや郷土愛が育まれにくく、地元への関心が薄くなってしまっているのではないかと考えたからである。市の人口減少、少子高齢化、伝統工芸品や農家の担い手不足などの問題点とそれらを結びつけ、

本計画を設計しようと考えた。

対象敷地を、区画整理事業により新たに大型商業施設ができる予定であり、それにより家族連れや子どもたちの利用者が増えることが見込める、国道349号線沿いに設定した。

これにより、地元の人、子どもたちに常陸太田の良さを知ってもらい、郷土愛を深めてもらうと同時に

外に向けた発信もできるようになってもらうことを目指す。

■ コンセプト

子どもたちが、体験して地域を学ぶ学習施設

メインターゲット

地域の子どもたち + その親

これからの地域の担い手である子どもたちやその親世代の若者をターゲットとし、子どもたちを意識し、わかりやすく、参加しやすい、直感的に興味を持ってもらえるように体験学習とした。若年層の郷土愛を定着させることで、人口減少、他県への人口流出、工芸品や農家の担い手不足を解決する。

■ 施設の主な機能

- | | | |
|------|-----------|------------------------------------|
| ○工芸品 | ・ワークショップ | 職人さんたちにも来てもらい教えてもらう |
| | ・工房 | 地域の人も職人さんも使える |
| | ・販売展示 | 工芸品の展示を見ることができ、商品を買うこともできる |
| ○特産品 | ・カフェ | 果樹園で採れたもの、その他の特産品（米、そば、納豆など）が食べられる |
| | ・果樹園 | 作り方が学べる 収穫体験 |
| ○地域 | ・観光地の紹介展示 | 概要、観光ポイントを展示形式で紹介 |
| | ・図書室 | 普通図書に加え、市の資料や郷土資料も見ることができる |
| | ・自習室 | 地域の学生が勉強に使うことができる |
| ○遊び場 | | |

■ 対象敷地について



常陸太田市

人口：47,586人 面積：371.99km²

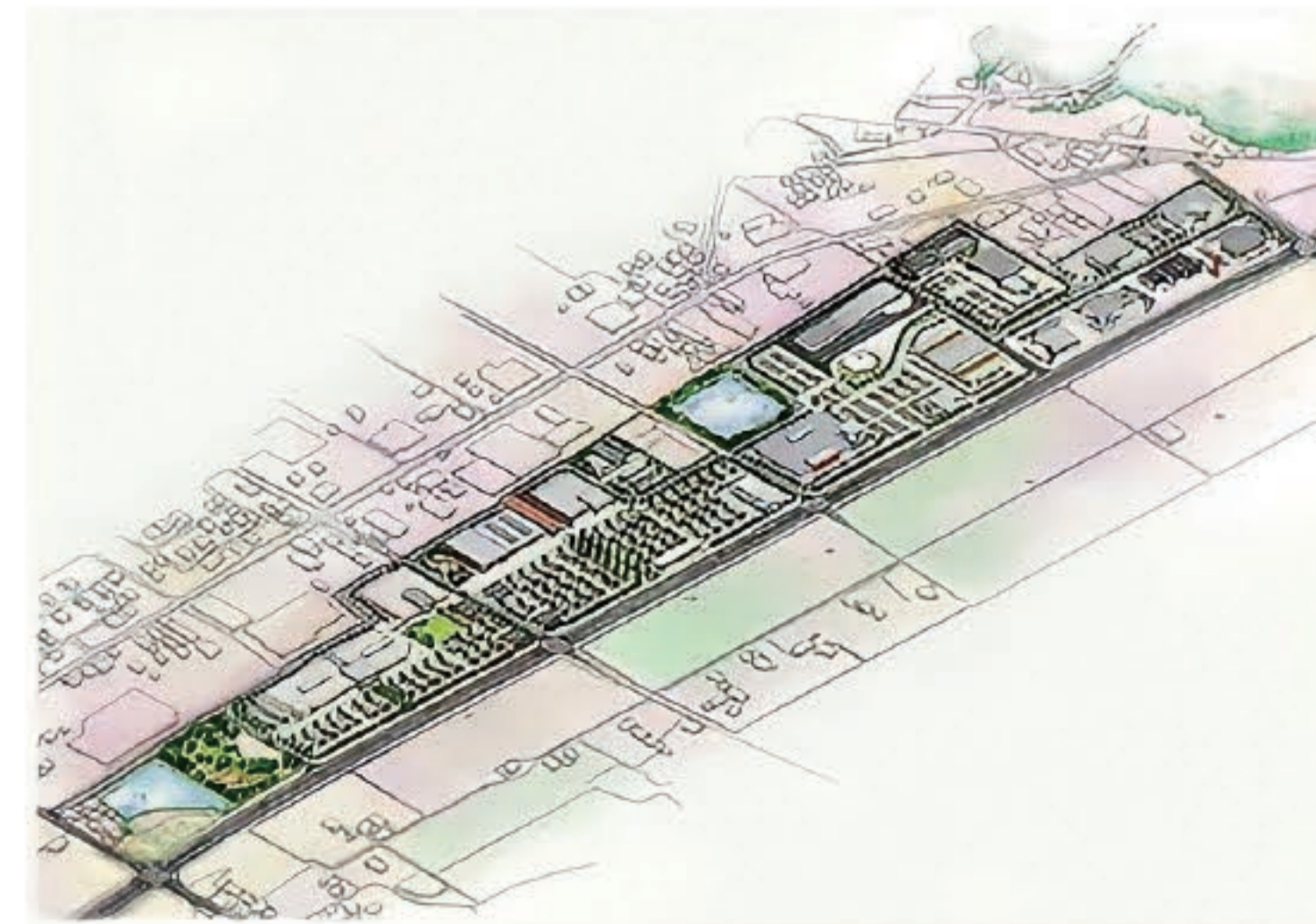
- ・1954年7月15日-久慈郡太田町が機初村、西小沢村、幸久村、佐竹村、誉田村、佐都村を編入。合併と同時に町名を常陸太田町と改めた上で同日市制施行し、常陸太田市が誕生。
- ・2004年12月1日-金砂郷町、水府村、里美村を編入。
→この合併により、県内で最も面積の広い市町村となった。
だが、人口密度は128人/km²で、41位/44位。
市の北側には山岳地が多く含まれているということもあるが、
県全体の人口は県央、県南に集中傾向にあり、市を含む県北近隣自治体は人口が減少している。

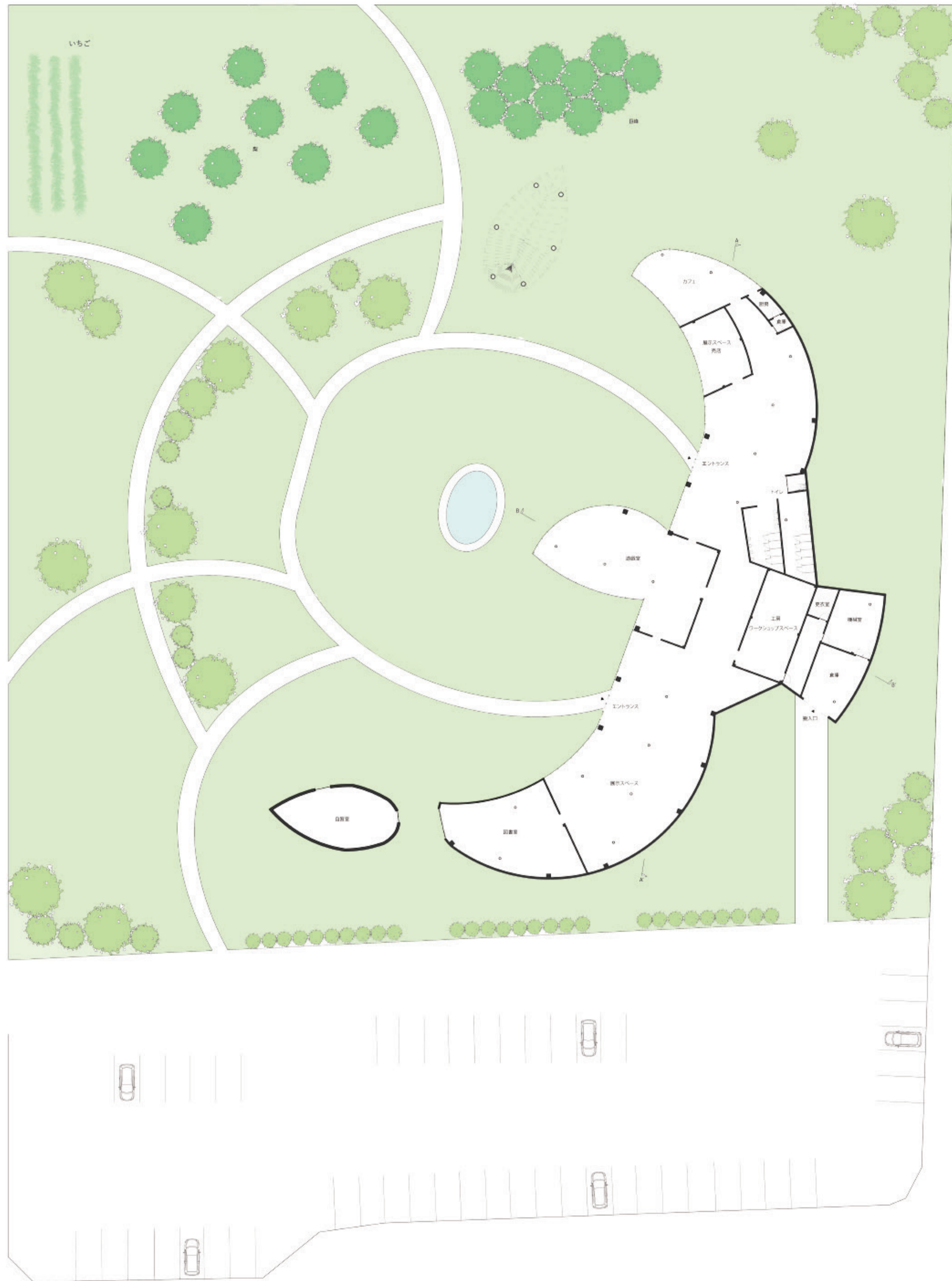
対象敷地 〒313-0004 茨城県常陸太田市馬場町付近
東部土地区画整理事業における C-1 街区 (15,000 m²)

■ 常陸太田市の東部土地区画整理事業

市が、買い物環境の向上や雇用創出、若者世代の定住を図るなどの目的で土地区画整理事業によるまちづくりを推進。
事業対象区域は市役所北部に位置する約 26ha の地域で現在は田地。
国道 349 号バイパス沿い、JR 水郡線常陸太田駅の北側約 1.5 km に位置し、常磐自動車道日立南太田 IC のアクセスも良好。今後は日立笠間線の整備などにより、利便性のさらなる向上が期待される。

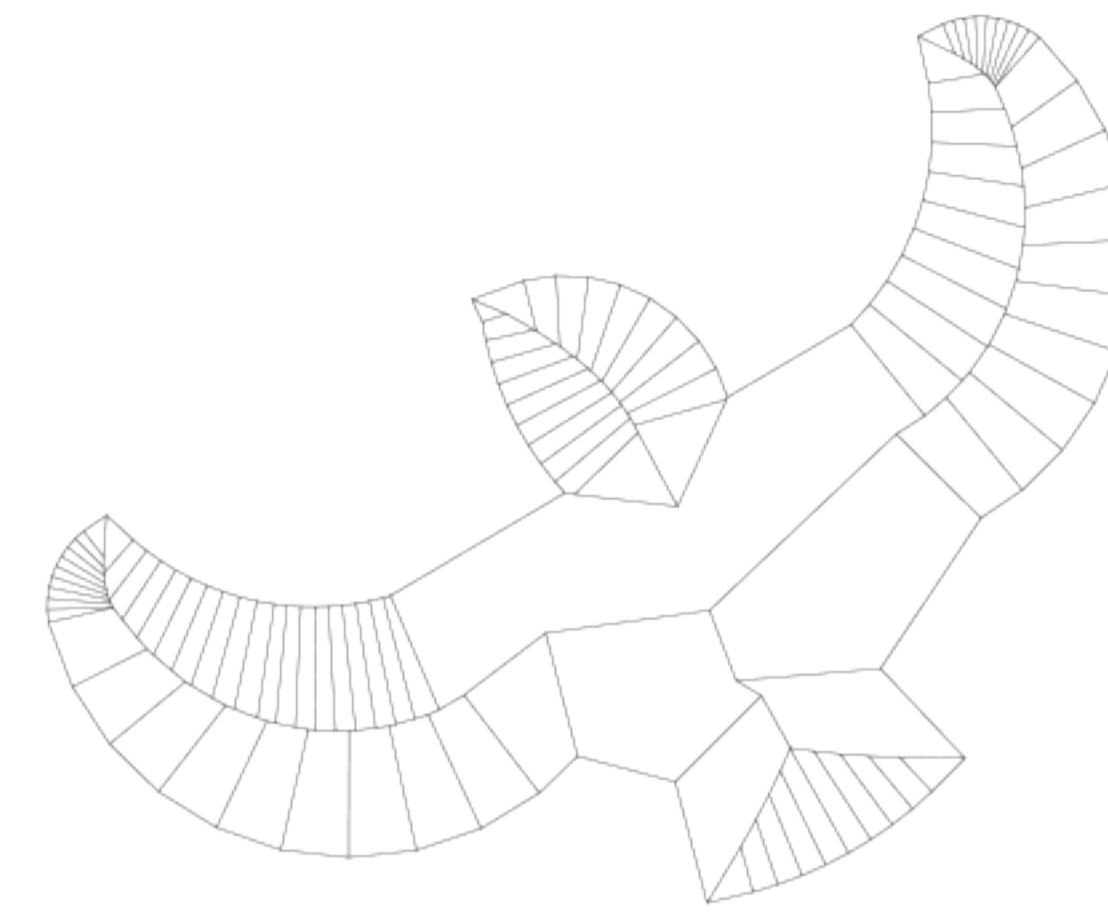
購入が決まったのは A 街区 (約 4 ha) および B 街区 (約 5 ha) で、A・B 街区を一体的に活用して商業施設を整備する方針。
一方で北側の C 街区 (約 5 ha)、D 街区 (約 4 ha) では現在も進出企業を募集中。





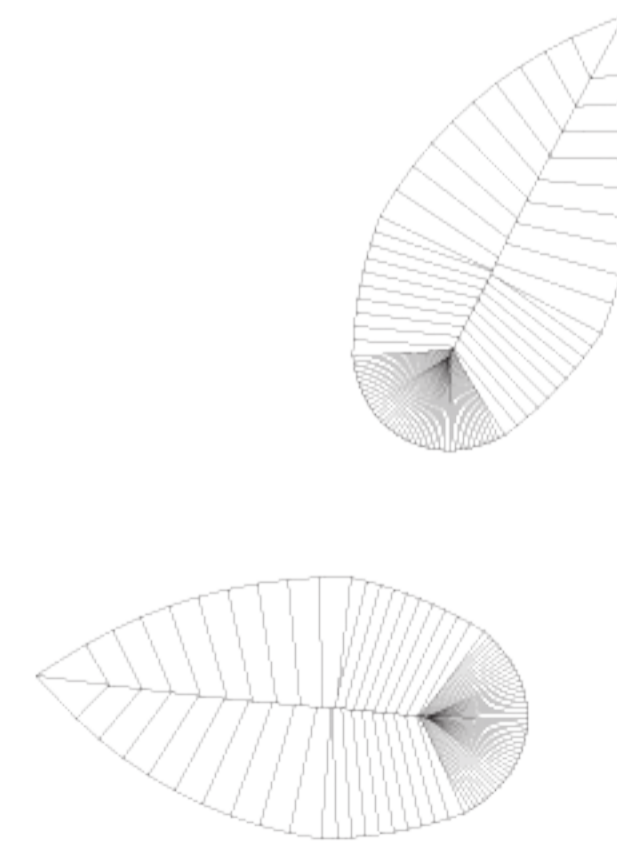
■ デザインモチーフ

○カワセミ



常陸太田市の鳥となっている カワセミ。
 自然を象徴する鳥と言われており、水と緑を大切に、強度の美しい自然を守り、豊かな明日を目指す
 常陸太田市を象徴する鳥であるためデザインモチーフとした。

○葉っぱ



カワセミの親鳥が、ヒナが魚を獲るための練習をさせている説やヒナが魚と間違えて獲ってしまった説などがある葉っぱ。
 設計した体験学習施設も、地域の子もたちに、体験を通して常陸太田に興味を持ち、学び成長して、羽ばたいて行って欲しいという想いを込め、
 葉っぱをデザインモチーフとした。



売店・展示スペース



工房・ワークショップスペース

■ 取り扱う工芸品について

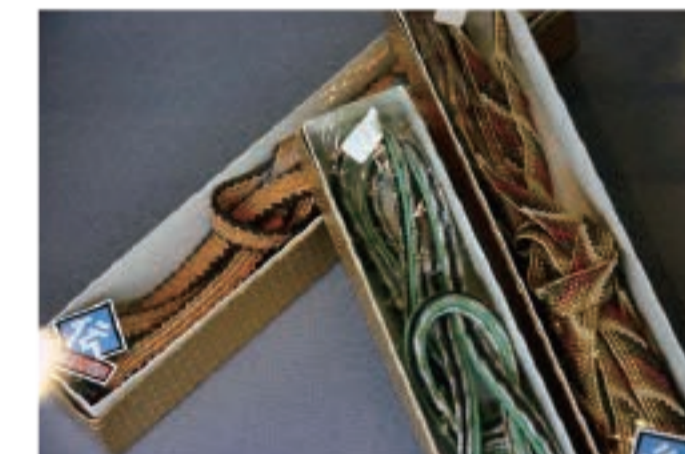
今回扱う工芸品は、西ノ内和紙、美術組紐、雪村うちわ

西ノ内和紙



清流と良質の楮、手作りの伝承技術を持つ名人の織り成す和紙は、民芸品やインテリア用品としても人気が高い。強靱で虫もつかず、水につけても破れにくい。そのため、古くから布の代わりに着物に使われた。県の無形文化財指定。

美術組紐



関東に唯一残る伝統的組紐の技術。300年の歴史を持つ。組ひもの発祥の地は朝鮮と言われており、日本では江戸時代に始まり、関東流と関西流の二つの流れがある。関東流の組ひものは江戸組みと呼ばれ、手に持ったときの硬さ、太さ、丈夫さが特徴。製品は、帯じめ・羽織ひもで、伝統技術を駆使した気品ある作品が作られる。

雪村うちわ



室町時代の水墨画家で禅僧の雪村が創始。西ノ内和紙に絵付け。真竹で作った骨に西ノ内和紙を貼り、馬やアサガオ、水戸八景などの水墨画が施してある。水戸公園も愛用したといわれる。

ワークショップ

職人さんたちにも来てもらい教えてもらう。

子どもたちでもできる簡単なものをワークショップとして行う。

- 西ノ内和紙
 - ・雑貨作り ブックカバー、名刺入れ、箸置き
 - ・すき絵体験 染料で色付けした和紙を針金とスポイトを使って絵を描く
- 雪村うちわ
 - ・うちわ作り体験 西ノ内和紙を使ってのうちわ作り
 - ・絵付け体験 うちわに絵を描いてもらう
- 美術組紐
 - ・制作体験

工房

- 市民工房 工芸品について学ぶことができ、実際に作ることができる。職人さんたちも使うことができる。

販売・展示

施設内にある売店スペースにて、職人さんが施設内の工房で作った作品、自工房で作った作品の販売と展示を行い、お客さんが購入することができます。



カフェ



果樹園

■ 取り扱う特産品について

今回扱う特産品は、巨峰、梨、いちご

巨峰（常陸青龍）



昭和53年、常陸太田市内のぶどう農家において巨峰の実生から育成した、常陸太田市オリジナルの黄緑色をしたぶどう。巨峰より2〜3度高い糖度と少なめな酸味が特徴で、特に女性に人気。

梨（幸水）



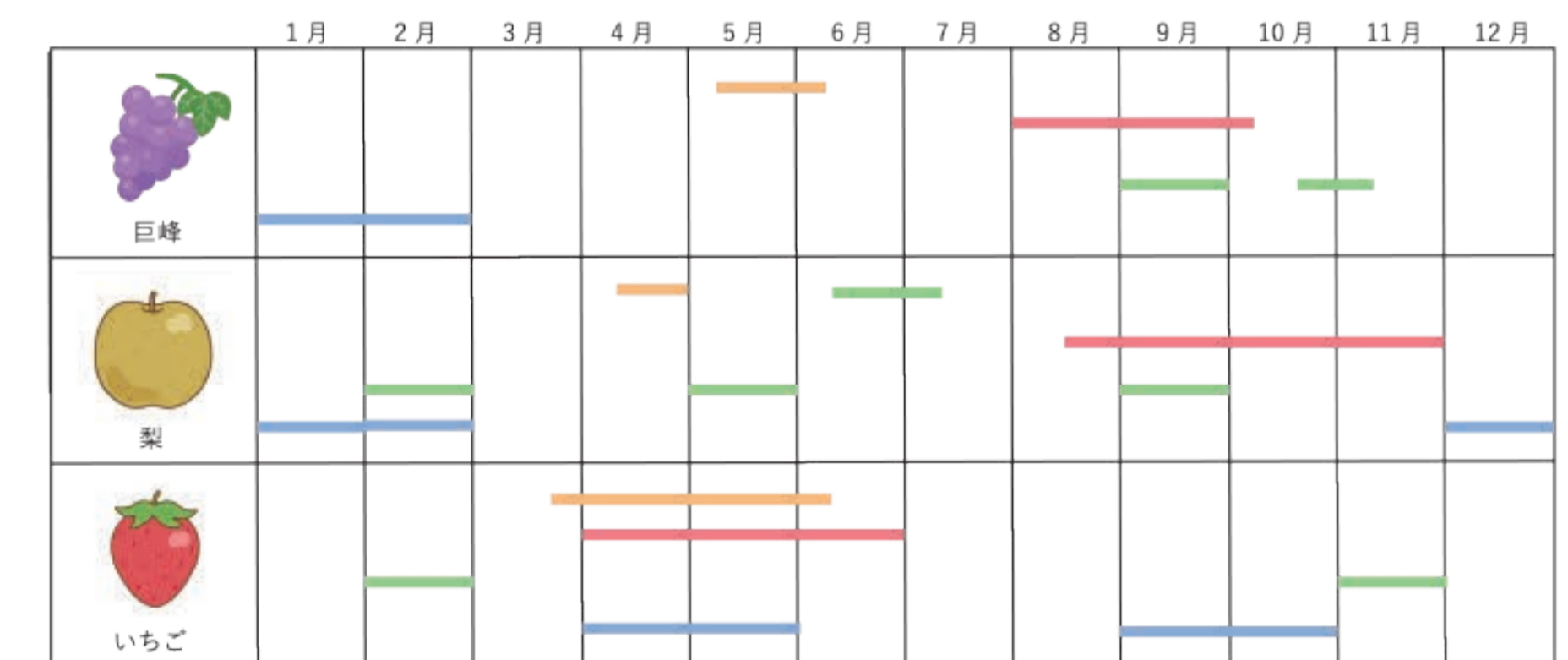
常陸太田で梨の生産が始まってから100年を超えた。梨収穫の季節の始まりを告げるのは早生品種の幸水。酸味は少なめで糖度が高いのが特徴。果汁も多く、梨といえば幸水という人も多い人気品種。

いちご（いばらキッス）



2012年に品種登録されたニューフェイス。名前からも分かるように茨城県のオリジナル品種。縦長の大きめで真っ赤な果皮と淡い赤色の果肉は糖度が高く、酸味とのバランスもよく、濃厚な食味が特徴。

果樹園での栽培果樹



— 開花期
— 収穫期
— 肥料
— 剪定
— 植え付け（いちご）



紹介展示スペース



自習室

取り扱う観光地について

今回扱う観光地は、西山荘、プラトーさとみ、龍神大吊橋、梅津会館、旧町屋変電所、旧太田中学校講堂

西山荘



水戸黄門で知られる、水戸藩2代目藩主・徳川光圀公が藩主の座を退いた後、1691年から1700年に没するまでの晩年を過ごした隠居所。建物は茅葺平屋建て、内部は粗壁のままで、どの部屋にも装飾はなく、書斎も丸窓だけ三疊間と質素な佇まい。

プラトーさとみ



標高 780 m にある高原の宿泊施設。高台に立地していることから、那須連峰の雄大な景色や秋から春にかけては富士山を望むことが出来る。主な施設としては、宿泊棟（本館）、キャンプの外、BBQハウス、20cm屈折望遠鏡を備えた天文台（アストロさとみ）などを併設。また、年間を通して清涼な風が吹きわたるこの高原には風力発電用の風車が7基設置されており、一際目を引く大型風車（高さ：約 107m）は里美牧場のランドマークとなっている。

龍神大吊橋



龍神峡は、奥久慈県立自然公園に位置し、V字形の美しい深谷の中を流れる龍神川をせき止めた龍神ダムの上にかけている。橋の長さは 375m で、歩行者専用として国内最大級の長さを誇り、ダム湖面からの高さは 100m、橋の上からは四季折々のパノラマが広がる。バンジージャンプ、カヌー、ハイキング、キャンプができる。

梅津会館



昭和 11 年に当市出身の実業家・梅津福次郎の寄付により建てられたもので、南東角には角塔を、正面には大アーチの車寄せを備えた本格的な庁舎建築。主要部はタイル張りで、アーチのキーストーンには装飾が施されている。昭和 53 年まで市役所として利用されたのち、同 55 年に郷土資料館として開館。当市出身の画家・宇佐見太奇の屏風などの美術資料、幡山古墳群や瑞龍古墳群から出土した考古資料、農業や漁業の器具をはじめとする民俗資料などが多数展示されている。

旧町屋変電所

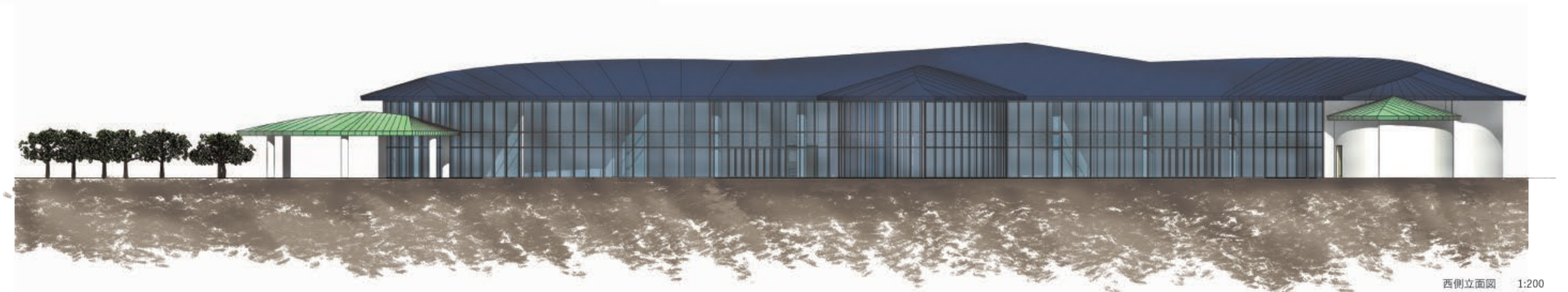
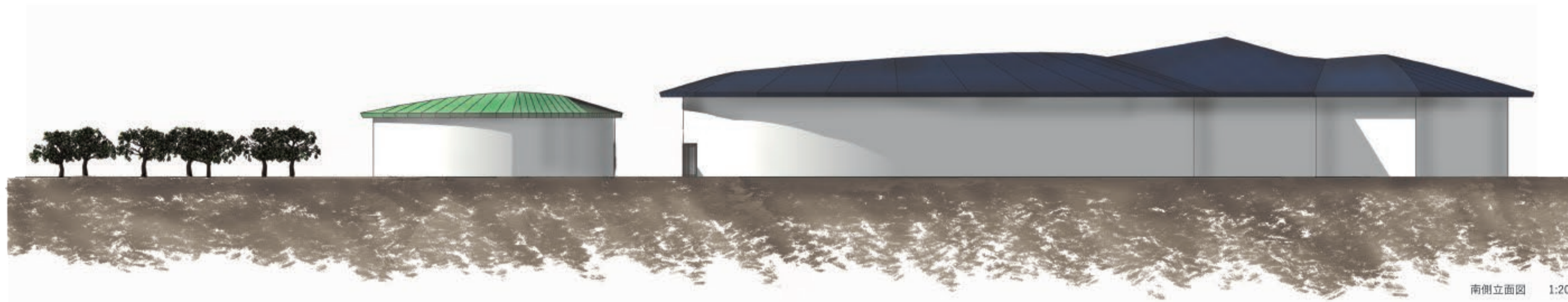
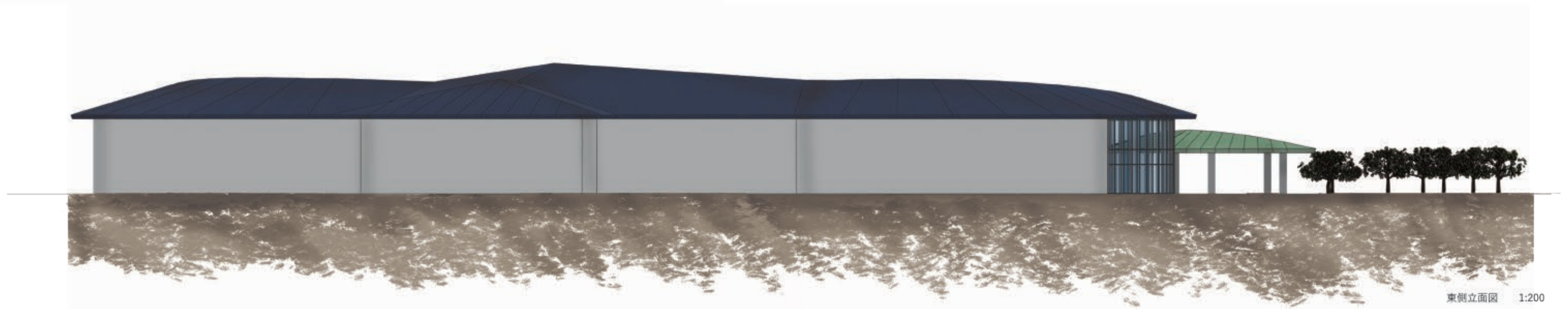
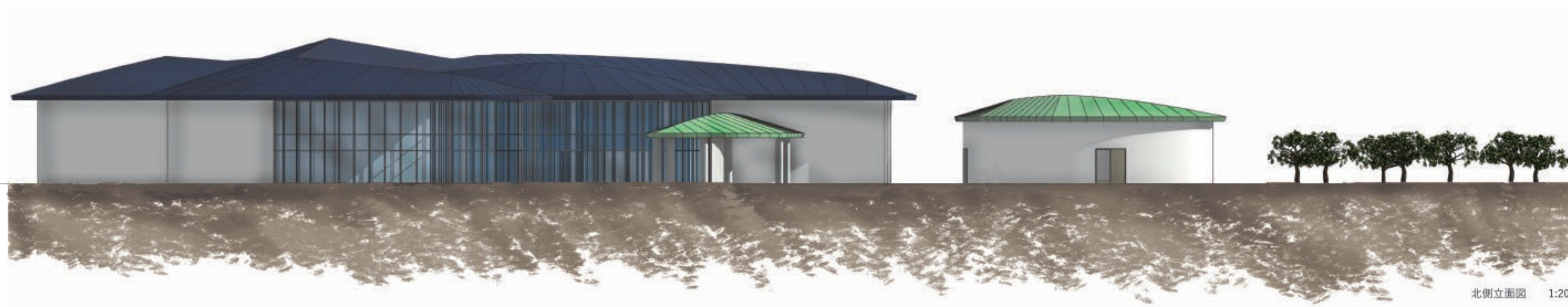


明治 42 年 1 月、日立製作所の前身である久原鉱業所日立鉱山によって建設された水力発電所の変電施設。その後、明治 44 年の春に「茨城の電気王」と呼ばれた前島平が設立した茨城電気（後の東京電力）が町屋発電所を買取った。旧太田町などで初めて電灯が灯ったのは同年の 11 月 28 日。煉瓦造りで切妻屋根の建物と奇棟屋根の建物がつながった外観が特徴。昭和 31 年まで変電所として機能した後は、地域の集会所として利用され、現在は地区の保存会によって周辺整備が進められている。

旧太田中学校講堂

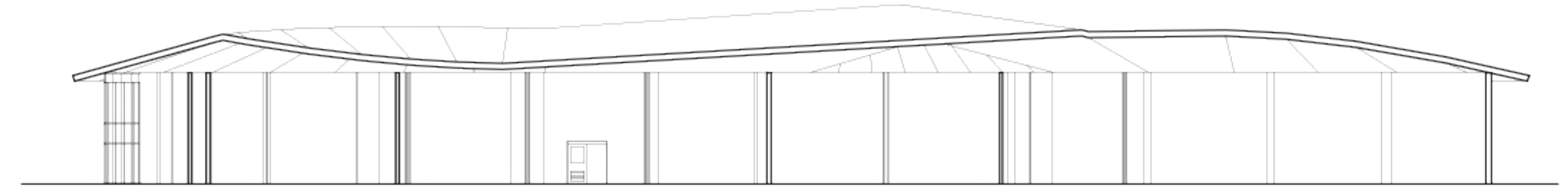


現在は県立太田第一高校敷地内に資料館として使われている。明治 37 年 12 月 1 日に竣工し、多くの卒業生の思い出の場として親しまれてきた。昭和 51 年 2 月 3 日には、国の重要文化財（建財 1977 号）に指定された。指定時の文化庁の調査では、「明治時代における洋風建築としての重要な遺例であり、損傷も少なく堂々としている。これは、設計者と請負師の技術と心が合致していたことと、特に御影石の質と工法のすばらしさに起因する。」と賞された。

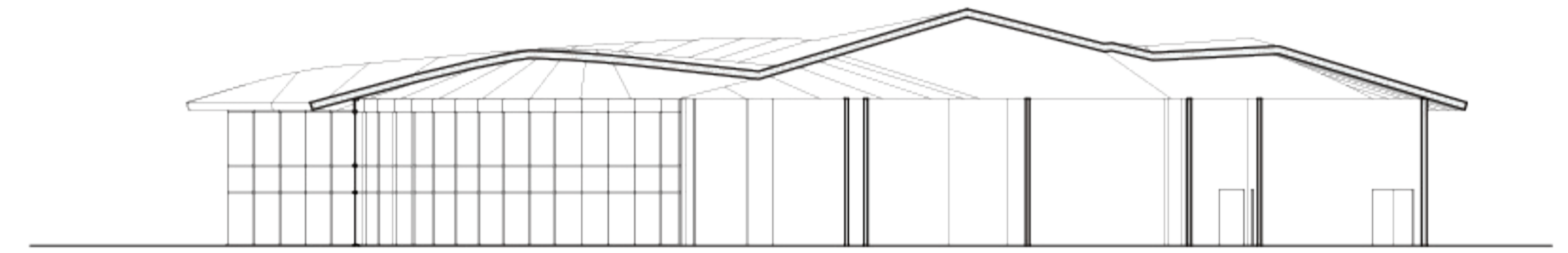




遊戯室



AA' 断面図 1:200



BB' 断面図 1:200



屋外の遊び場

